

◇現代社会と青年◇

ミス・ワールド・ジャパン

2019

株式会社キャリアアソシエーツ
代表取締役社長

むろだて いさお
室館 勲



弊社はミス・ワールド・ジャパン2019とスポンサー契約を締結し、八月一日、ファイナリストの方々に向けて、私から「日本の基礎講座」と題してを講義をいたしました。

「ミス・ワールド」とは世界三大ミス・コンテストの一つであり、七十年前にイギリスで始まった最も歴史のある大会です。特徴は「目的のある美」を掲げていること。外面、内面から磨き上げた美を使って、どのように世界に貢献していくのかという部分が重要視されます。カレントがお手元に届く現在は、既にミス・ワールド2019日本代表が決定しているかと思えます。

今年の日本大会には、約八千人がエントリー。ファイナリスト三十人は一カ月間かけて国内で活動し、日本代表が決定します。この度のファイナリストは二十代が中心で、大学生や外資系会社員、モデル、医者などタレントぞろいでした。日本代

表に選ばれば、百三十カ国の代表と一カ月、共に世界を回り、奉仕活動などをします。世界の方々と交流する彼女らに対し、私が選んだテーマは「堂々と日本のことを語れる」ための助けとして、日本の良さを伝えることでした。

皇室の話や、伊勢神宮の「常若の精神」、浮世絵とゴッホにまつわる感動秘話、北斎漫画から現代の世界のマンガブームにつながった話、台湾統治時代の話など。彼女たちの一番のヒットはマレーシアのマハティール首相の一九九二年、欧州・東アジア経済フォーラムにおける「もし日本なかりせば」演説でした。

彼女たちは、会場に入るなり元気で丁寧な挨拶をし、席も前から順番に埋まっていきました。座る姿勢は立腰で美しく、メモや意見交換も積極的でした。事務局の方の話では、エントリー時から二次審査、そしてファイナルと進むにつれ、自覚が出てきて、ドンドン成長していくそうです。

「三百六十五日、二十四時間、三百六十度から見られている意識を持ちなさい」そんな指導を受けて一カ月の戦いに挑む若者たちを見て、目標に向かって闘う人は、誰しもが美しいものだと感じました。

「日本のことをこれだけしっかりと習うのは初めてで、本当に興味深かったです。日本人として自信が深まりました」多くの方からこのような感想が上がりました。今回の経験を活かし、素晴らしい人生にしたいと思っています。